



第60号発行  
司令業務室  
広報班  
R3.4.21

# はなもも

駐屯地司令要望事項  
地域と国民のために

## 鳥インフルエンザ災害派遣

第一施設団は、二月二日から七日の間、茨城県城里町における鳥インフルエンザ発生に係る災害に伴い感染拡大防止を目的とした災害派遣活動を実施した。  
茨城県で鳥インフルエンザが確認されるのは十五年振りであった。  
茨城県の災害派遣を担任する施設学校は二日朝、県知事からの災害派遣要請を受け、派遣命令を發出して活動を開始した。  
施設団は、増援として、古河駐屯地所在の第一〇一施設器材隊、第三〇一タンク車両中隊及び施設団本部・付隊の隊員からなる部隊を現地に前進させ、施設学校及び武器学校の派遣部隊とともに、二十四時間体制で活動した。  
派遣部隊は、七日、同養鶏場での任務を完遂し、知事からの撤収要請を受けて、平素の体制に移行した。



任務に従事する隊員

## 航空機体験搭乗を実施



記念撮影

自衛隊・駐屯地に対する理解を深めてもらうとともに親近感を醸成することを目的に、東部方面ヘリコプター隊の支援を受け、駐屯地モニター五名を含む部外者六十名を対象に航空機体験搭乗を実施した。  
モニターからは、「自衛隊により一層興味を持つことができた」等、好評な意見を頂いた。また、参加者から「景色がきれいだっつた」「楽しかった」等たくさん喜びの声を聞くことができた。

## 駐屯地部外講話

古河駐屯地は、「リーダーシップ」を題材に、株式会社ヤマオコーポレーション代表取締役である鬼澤 慎人氏を招き、部外講話を実施した。  
今回は、新型コロナウイルスの影響もあり、駐屯地各部隊からの聴講者を限定する形となった。  
「リーダーシップとは人の成長と成功を助けるためにあり、そのためには、良い話し合いができる組織を作らなければならない。」との講話をうけた隊員からは「もっと積極的に部下と話し合おう」等、心境の変化が伺えた。  
隊員の識能及び服務意欲の向上を図ることが出来た。



講話の様子

## 駐屯地モニター会議 で意見を聴取



司令挨拶

三月二十四日、古河駐屯地会議室において、駐屯地モニター会議を実施した。  
今年度の駐屯地モニターは、新型コロナウイルスの影響を考慮し、昨年度に引き続き六名の方々に委任された。  
古河駐屯地司令挨拶から始まり、駐屯地に対する質問や要望など、様々な意見交換を行い、駐屯地と地域社会との一体化と親近感を醸成を図った。

## 令和3年度駐屯地モニター

駐屯地モニターとは、駐屯地の隊務運営の参考になるような意見・要望などを述べてくれる方のことで、駐屯地周辺に居住する方の中から選ばれています。



篠崎さん

澤山さん

齋藤さん

山中さん

土田さん

菅沼さん

優秀隊員の紹介



古河駐屯地業務  
隊 栗原技官は、  
陸自飯館グラ  
メニュー作成の功  
績により駐屯地司  
令より褒章を受け  
た。

また、陸自飯館グラ  
ンプリ四部門(肉  
料理・井・ご当地  
グルメ・ラーメン)  
すべてエントリー  
したとして、東部  
方面總監から努力  
賞を受賞した。

努力賞受賞

駐屯地司令褒章

曹友会活動

三月九日、駐屯地体育館前の駐車  
場地域において、曹友会総会が役員  
のみで実施された。  
総会では、令和二年度の会計報告  
及び新旧役員の顔合わせを行った。



曹友会長 処  
支 渡邊曹長



事務局長  
高射中隊  
菅原2曹

定年退官予定者



支 処  
菊池2曹  
8月27日付



会計隊  
三浦1曹  
6月27日付



支 処  
古谷1曹  
5月31日付

永年の勤務、  
お疲れさまでした。

新配置隊員



ダンブ中隊 飯泉1士  
ダンブ中隊 和田2士  
器材隊 神山2士  
器材隊 内藤2士  
102DS 山口1士  
ダンブ中隊 小森2士  
器材隊 西岡2士  
器材隊 辻村1士

四月一日付新規採用者



支処 片野技官  
支処 佐々木事務官  
業務隊 鈴木事務官  
支処 川口事務官

三月十五日付異動部隊長



小宮1尉は 朝霞から  
森1尉は 朝霞へ

《東西地区援護センター長》



白鳥3佐は 土浦から  
武川1尉は 名寄へ

異動者

3月15日付

【転出者】  
第1施設団本部  
3等陸曹 清水 和規(札幌)  
第1施設団本部付隊  
1等陸曹 松井 威成(勝田)  
1等陸曹 小林 秀雄(市ヶ谷)  
2等陸曹 津金 勇太(仙台)  
2等陸曹 金井 めぐみ(新町)  
2等陸曹 十枝内 聡子(朝霞)  
2等陸曹 熊倉 将(帯広)  
2等陸曹 里 真司(徳島)  
第101施設器材隊  
1等陸尉 柴田 正太郎(川内)  
2等陸尉 田村 祐也(高田)  
2等陸曹 辻井 駿亮(座間)  
2等陸曹 金井 俊明(新町)  
3等陸曹 薄井 剛(南恵庭)  
3等陸曹 秋葉 寛人(三軒屋)  
第301タンブ車両中隊  
2等陸曹 平山 仁(大久保)  
2等陸曹 小野 智(岩見沢)  
3等陸曹 木村 映日(朝霞)  
3等陸曹 中井 亨(春日)  
関東補給処古河支処  
3等陸佐 松浦 恭(春日井)  
3等陸佐 金光 明(市ヶ谷)  
3等陸佐 渡邊 孝雄(霞)  
3等陸佐 伊藤 嘉彦(健軍)  
1等陸尉 山中 淳治(神町)  
2等陸尉 高橋 一馬(武山)  
2等陸曹 小野 苑佳(別府)  
3等陸佐 川口 詩織(土浦)  
准陸尉 森山 潤一(桂)  
第102施設直支支援大隊  
2等陸尉 熊谷 隼(朝霞)  
2等陸尉 瀬川 大悟(横須賀)  
3等陸曹 高橋 梓(東千歳)  
第337高射中隊  
2等陸尉 執行 恵太(練馬)  
2等陸尉 村岡 泰貴(松戸)  
1等陸尉 坂本 健(青野原)  
3等陸曹 春田 雄大(十条)  
3等陸曹 田中 翔(松戸)  
第341会計隊  
3等陸尉 池田 寛(朝霞)  
1等陸曹 渡邊 友靖(朝霞)  
2等陸曹 米谷 実紀(朝霞)  
2等陸曹 新宮 凧(木更津)  
第320基地通信中隊古河河津隊  
1等陸曹 海東 浩二(小平)  
2等陸曹 接支援小隊  
3等陸曹 藤原 洋平(松戸)

3月29日付

【転入者】  
第1施設団本部  
1等陸尉 本橋 達弘(東千歳)  
2等陸尉 西本 大輔(幌別)  
第1施設団本部付隊  
陸曹長 永倉 和也(三宿)  
1等陸曹 大山 勲(大宮)  
2等陸曹 田中 徹郎(座間)  
3等陸曹 古沢 知(福島)  
3等陸曹 遠藤 達慈(座間)  
第101施設器材隊  
1等陸尉 池田 誠(座間)  
2等陸尉 小川 謙介(大久保)  
2等陸曹 宮川 謙悟(神町)  
2等陸曹 千葉 謙次(船岡)  
2等陸曹 若林 拓海(相浦)  
3等陸曹 五島 信久(勝田)  
第301タンブ車両中隊  
2等陸曹 阿部 貢(相浦)  
3等陸曹 安井 一真(小郡)  
関東補給処古河支処  
2等陸佐 森村 莊司(高田)  
2等陸佐 岩瀬 忠(朝霞)  
3等陸佐 根本 勝年(神町)  
3等陸佐 大島 貴将(勝田)  
1等陸尉 山岸 義克(勝田)  
1等陸曹 八巻 宏明(東千歳)  
1等陸曹 久保田 誠二(朝霞)  
2等陸曹 小松原 明彦(仙台)  
2等陸曹 鶴澤 泰洋(仙台)  
3等陸曹 野中 昌司(福島)  
3等陸曹 美由紀(滝ヶ原)  
古河駐屯地業務隊  
2等陸佐 月岡 裕一(北宇都宮)  
2等陸尉 鹿野 雅博(新町)  
2等陸尉 長谷川 正伸(霞ヶ浦)  
1等陸曹 平戸 正伸(霞ヶ浦)  
第102施設直支支援大隊  
2等陸尉 島田 哲也(練馬)  
2等陸尉 柿崎 祐樹(朝霞)  
1等陸曹 森川 昇(座間)  
2等陸曹 藤澤 健(松本)  
2等陸曹 中村 朋子(高田)  
2等陸曹 久我 貴紀(座間)  
第337高射中隊  
陸曹長 武田 輪季(下志津)  
2等陸曹 村上 正俊(青野原)  
2等陸曹 松丸 和夫(静内)  
2等陸曹 君島 航一郎(松戸)  
第341会計隊  
3等陸尉 近岡 洸文(霞ヶ浦)  
3等陸尉 小河 幸史(座間)

4月1日付

【転出者】  
関東補給処古河支処  
行( ) 柴田 雅弘(霞ヶ浦)  
行( ) 岡本 雅則(島根)  
行( ) 寺内 健(用賀)  
行( ) 佐藤 聡一(市ヶ谷)  
行( ) 原 祐一(栃木)  
行( ) 小峰 拓真(帯広)  
行( ) 那須 可苗(市ヶ谷)  
行( ) 芽生(市ヶ谷)  
行( ) 山崎 玲(松山)  
古河駐屯地業務隊  
行( ) 恒吉 俊久(市ヶ谷)  
行( ) 岡元 憲司(東立川)  
【転入者】  
関東補給処古河支処  
行( ) 山口 俊郎(市ヶ谷)  
行( ) 山村 淳(札幌)  
行( ) 高橋 清正(新潟)  
行( ) 森 貴信(用賀)  
行( ) 伊藤 斎人(石川)  
行( ) 林田 倫雄(霞ヶ浦)  
行( ) 岡本 佳奈(用賀)  
行( ) 坂本 健太(栃木)  
行( ) 堀 匡儀(松戸)  
行( ) 鈴木 雅之(十条)  
古河駐屯地業務隊  
行( ) 二階堂 政宏(三宿)  
行( ) 川上 富一(市ヶ谷)

転出された皆さん、お疲れ様  
でした。  
新しく配置・採用された皆さん、  
転入された皆さん、よろしく  
お願いします。

# 各部隊等の活動紹介



格闘徽章授与



遮蔽物の活用 (市街地戦基礎)



部隊格闘指導官 8名誕生!



前進間の格闘 (巻藁への小銃刺突)

**第一〇一施設器材隊**は、二月八日から三月三十日までの間、古河駐屯地において本部付隊が担任する集合教育「部隊格闘指導官」を実施した。

教育隊は富士学校普通科部、第五施設群、東部方面航空隊、東部方面後方支援隊、武器教導隊及び第一〇一施設器材隊から選抜された八名の隊員と、隊員を指導する上級格闘指導官五名、部隊格闘指導官七名の指導部で編成した。

教育では部隊における格闘訓練の教官及び格闘検定の検定官として必要な知識及び技能を習得させるとともに、部隊格闘指導官として必要な資質を養成し、戦闘の実相を理解し、部隊の現況、任務等に応じた格闘訓練を実施することができると、部隊格闘指導官を養成することができた。

被教育者は、約六週間のすべてのカリキュラムを乗り越え、三月十一日に検定法認定試験、三月二十二日及び二十三日に、理論(学科)、指導法、各種技術及び技術運用の認定試験を受験し、見事受験者全員が合格し、その左胸に「格闘指導官徽章」を輝かせることができた。



誘導弾起立中



レーダを準備中

**第三三七高射中隊**は、三月二十五日に松戸駐屯地で実施された群対空戦闘競技会に参加した。

対空戦闘競技会は、中隊が各装置を操作して戦闘姿勢を完了するまでの時間と正確性を競う競技であり、中隊は、練成の成果を発揮し、迅速正確な操作で戦闘姿勢を完了したが、惜しくも優勝は出来なかった。

来年度は、優勝出来るように練成を重ね、技術向上を図る。



事前の運行経路説明・確認



運行前の車両点検



練成中の車両

**第三〇一ダンプ車両中隊**は、三月に大型免許取得後間もない若年隊員を主体とした車両操縦縦練成を実施した。

当初、車両運行にあたっての基礎的事項である車両点検、この際に不具合が見つかった場合の処置要領等を教育・徹底し、以後駐屯地内及び駐屯地近傍一般道、相馬原、東富士各演習場の往復という形で段階的に移動距離を伸ばし、操縦練度の向上を図った。

中隊の特性として、特大型ダンプでの骨材運搬をはじめ、骨材以外の物資輸送も実施するダンプ中隊の一員として、隊員の練度向上意欲は大変高く、十分な成果を得ることが出来た。

今後、演習場定期整備をはじめ、各種工事及び支援、物資輸送等、様々な場面を練度向上の場と捉え、更なる技術の向上を目指す。



慎重に操作する隊員



大塚1曹 大川士長 笠間士長

**第三二〇基地通信中隊古河派遣隊**は、二十六日から二十七日にかけて大規模な無停電電源装置の換装工事を行った。

無停電電源装置とは、停電になった場合でも、あらかじめバッテリーに貯めておいた電気で各種機器の電源の瞬断を防ぐための機材である。

電気系統に関わる繊細な作業にも関わらず、派遣隊員一同集中を切らすことなく、無事に作業を終えることが出来た。

また、定期異動では、三名の隊員が着隊した。大塚一曹は、第三二七基地通信中隊北宇都宮派遣隊から、大川士長、笠間士長は習志野派遣隊から転入した。陸士両名は、四月に陸曹候補生試験を受験する。



前任上級曹長 小河曹長



会計幹部 近間3尉

**第三四一会計隊**は、令和二年度後期の定期異動で、池田三尉、渡邊一曹、米谷二曹の三名が転出し、新たに会計幹部として近間三尉が第三四一会計隊霞ヶ浦派遣隊(霞ヶ浦)から、前任上級曹長として小河曹長が第四四一会計隊(座間)から転入した。

転出した3名の隊員



米谷2曹



渡邊1曹



池田3尉

# 各部隊等の活動紹介



感謝状贈呈式



長尺物運搬

関東補給処古河支処は、二月三日及び四日の二日間、フオークリフト競技会を実施した。本競技会は、フオークリフトを装備している保管分類課、技術課、整備工場及び工作場の自衛官・事務官・技官計十六名が参加し、平素の任務を想定した競技内容により、個人及び団体戦で操縦能力を競い合った。

結果は、個人の部で岩田技官（整備工場）が長尺物及び重量物で二冠、団体の部では整備工場第一組が総合一位、保管分類課二組が二位となった。各隊員は、本競技会を通じて、運転技能の向上を図ることはもとより、安全意識を高揚させ、今後の業務に資する成果を得ることが出来た。

また、三月六日、古河補給処OB会との共催による古河支処創立二十三周年記念行事を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため例年とは異なり、行事を縮小し、感謝状贈呈式のみの実施となった。

感謝状贈呈式では、関連企業から住友建機販売株式会社（郵送による贈呈）、マルマテクニカ株式会社の二社、そして古河補給処OB会から工藤勝氏に対し、支処長から日頃の支処に対する貢献及び古河支処で作製した記念の盾を添えて、感謝の意をお伝えした。



贈呈する支処長



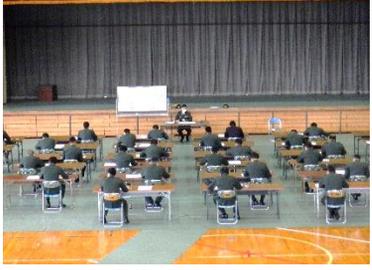
重量物運搬

古河駐屯地業務隊は、二月十九日、古河駐屯地業務隊OB会長以下役員三名の表敬を受け、令和二年度の業務隊活動状況及び令和三年度の予定等の情報を共有するとともにOB会（刀水会）との連携強化を図った。

この間、二月三日、茨城県城里町における鳥インフルエンザ発生に係る第一施設団災害派遣に伴い、災害用備蓄品四品目三百名分を交付し派遣任務完遂に寄与した。

また、四月一日、中堅陸曹識能試験兼ねて第一期一般幹部候補生（部内）試験、二期、第七十一期三尉候補者試験を管理し適正に実施するとともに、四半期駐屯地施設の整備として、空調機取付け、電気設備接地抵抗測定、非常用発電機用燃料タンク点検清掃、屋内消火ポンプフット弁修理等計二十四件の整備を実施し、勤務・生活環境の不断の改善を図った。

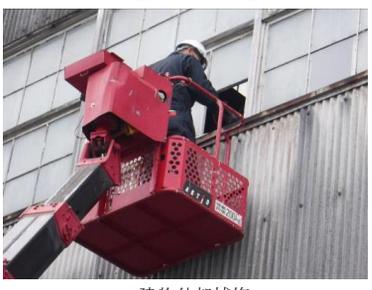
令和三年度も隊員の生活・勤務環境向上に向け、全力で取り組んでいく。



各種選抜試験管理



OB会との連携強化



建物外部補修



災害用備蓄品の交付



グレーダガイドレール交換



感染症対策として使い捨て手袋を使用



1/2 tトラックジャンピング



練成風景

第一〇二施設直接支援大隊は、二月十五日から三月五日までの間、一号営庭及び本部付隊工場地域において、令和二年度第二回閣練成訓練及び検定を実施した。

本訓練では新型コロナウイルス感染症対策措置を講じつつ、二級検定種目である基礎技術、応用技術を練成し、受検者三十名は全員合格を果たした。

また、四月三日から十一日までの間、東富士整備支援隊として、当該整備を支援した。

本整備支援隊の編成にあたり、平素の直接支援態勢を保持しつつ、全般支援大隊の一部（需品整備機能）を配属し、被支援部隊の任務達成に寄与し、本期間を部隊練成の場として最大限活用し、野外整備能力の向上を図った。